

第 1 回推進会議の主な意見（概要）

北九州市学校警察連絡協議会

○学警連は、小・中・高等学校、特別支援学校により組織されており、市内 7 地区でそれぞれ取り組んでいる。この内、小倉北区では、県下一斉の街頭補導キャンペーンのほか、夏休み期間中の暴走族、ハント族の指導や、「わっしょい百万夏まつり」開催時の巡回、街頭補導を小倉北署等々と一丸となって実施している。

北九州市自治会総連合会

○安全・安心は地域の最も重要な推進事項であり、今後とも、まちづくり協議会を含めて、地域の安全・安心のためにさまざまな活動を推進していきたい。

北九州市少年補導委員連絡協議会・北九州市青少年育成会協議会

○どちらの会でも、毎年、研修会を行っている。大きな行事としては、各区で街頭補導を行っている。育成会は、1 年に一度リバーウォークで大きな大会を実施している。また、各区持ち回りで、青少年非行の研修会を実施している。

北九州市女性団体連絡会議

○性別にかかわらず、子どもから高齢者まで、みんながそれぞれ、その特性と個性、そして幸せな、自分の能力を発揮できる社会の実現を次世代の人に残したいという大きな目的の下に取り組んでおり、この「安全・安心」が私たちの活動の根底になるのではないかと考えている。

北九州市 P T A 協議会

○子どもというのは常に巻き込まれたり、被害に遭う側であるため、やはり親が見守っていくしかない。我が子だけではなくて、地域全体を 1 つの家族として取り組んでいくべき。

北九州市婦人会連絡協議会

○各区及び市で実施している「民踊の集い」の席で 700 人以上を対象に「明るい服装で出掛けましょう」というファッションショーを行った。その中で、高齢者は黒い服を着て回りがちなので、「どこか明るいものを着けてください」「ペンライトを持ってください」という啓発を行っている。

北九州市保護司会連絡協議会

○犯罪件数は大きく減少した一方で、再犯者率は、少しずつ上がっているというのが現状で、大きな課題である。働き先を持っている方と、そうでない方では再犯率が4倍違うといわれているため、罪を犯したということを承知の上で採用してもらえる協力雇用主の制度に力を入れており、今、かなり協力雇用主が増えている。

北九州商工会議所

○北九州市のイメージアップのために、北九州市の企業の工場長や支店長で赴任された方々を対象に、北九州市内の工場や工場夜景の見学、皿倉山に登るなどしている。赴任前は、「非常に怖いまちだ」と思っているが、少しでも解消できるようにと実施している。

九州国際大学 山本教授

- 犯罪の機会を減らしていく上では、市はもちろん、事業者の方々や市民の方々の協力も非常に大事になってくる。「オール北九州」での体制をつくっていくことが大事である。
- 今の地域防犯活動を担っている方々が願っているのは、次の世代にこの仕組みをつないでいきたい、そのことによって、若い世代が北九州市で安心して暮らせるようにしていきたいという思いである。

福岡県警察本部 生活安全総務課

- 今、私たちの課題として取り組んでいるのが、地域活動を担う次世代の育成。どこの地域団体も共通の課題として、「資金の問題」、活動の固定化という「マンネリ化の問題」、そして「高齢化の問題」、この3つをどこの団体も抱えている。
- 犯罪は平成14年からずっと減っているが、性犯罪、万引きなどは非常に減りにくい。ニセ電話詐欺やサイバー詐欺、サイバー犯罪など逆に増えた犯罪もある。
- 被害対象となる、性犯罪では女性、ニセ電話詐欺では高齢者、それから、被疑者のほうの対象となる、サイバー犯罪では若い世代。こういった方々に、我々の広報啓発の声がなかなか届かないという問題がある。

不動産中央情報センター 濱村社長

- 単身の高齢者が増えていることが課題であるが、学生の安否確認の要望も多い。これからは入居中のサービスを充実させることによって、どの世代の方も安心して安全に暮らせるまちづくりというものに少しでも貢献をしていきたい。

福岡県防犯設備士協会

- 地域安全活動への支援、防犯設備の普及促進を図り、県民が安全で安心して生活できるまちづくりに貢献することを活動の目的としている。「セキュリティアパート認定制度」や「セキュリティホーム認定制度」を行っており、犯罪企図者が犯罪をあきらめるような環境づくりができれば良いと思っている。
- 安全・安心に関する意識の高揚ということで、子どもを対象とした安全教育に関し、防犯検定、防犯認定みたいに、子どもたちにそういう認定を与えるというのも1つの方法かと思っている。

日本ガーディアン・エンジェルス

- 活動を始めたころから比べると、小倉駅周辺は、体感治安を含めて、非常に治安が良くなってきているものと実感している。少年たちの深夜徘徊する数は激減している。また、違法な駐輪も激減している。
- 一人一人の市民、事業者、市、警察がリスクにもっと敏感になって、日頃から準備をしておくべきである。全市民が、「オール北九州」で、安全に対して敏感になって生活をしていく、あるいは事業に取り組んでということが目指すところである。

タウンモバイルネットワーク

- 小倉駅を拠点に小倉都心部の違法駐輪対策、自転車の盗難防止対策を目的とした keeple（キープル）という活動名で、北九州市立大学の学生と一緒に取り組んでいる。この活動を始めた7月以降、小倉都心部の軽犯罪の発生件数が激減していると警察署から聞いている。

北九州中小企業団体連合会

- いろいろな協同組合が組合員であり、いろいろな形で安全・安心に取り組んでいる。その中で、年1回、11月16日、「いい色の日」と銘打って、組合員の職人が、地域、行政の方々などと、地域全体として落書き消しを行っている。

北九州タクシー協会

- 安心・安全に関しては、学童の見守りや、全車両に子ども 110 番ステッカーを貼るなどして取り組んでいる。
- 県庁と大規模災害時の防災協定について協議している。北九州は大規模災害が少ない都市であるが、県内全部を含め、タクシーで協力できるような防災体制、そういうものを決めているところである。
- コンビニに対し、タクシーを重点的に配車するという協定を結び、お互いにコンビニ防犯に取り組んでいる。

北九州市老人クラブ連合会

- 諸会議を利用して、市内の交通事故発生件数の 82% くらいが高齢者であることや、高齢者の悪質商法による被害防止のための情報発信、啓発などの努力を続けている。

北九州市連合協力雇用主協会

- 今、少年の 1,000 人当たりの非行者率が、全国の平均で 5.8 人、福岡県は 8.4 人、北九州市は 11 人である。この数字は恐らく全国一ではないかと思う。
- 再犯者率は、有職者の場合は 7.5% に対して、無職者の場合は 29.8% で約 4 倍。そこで、罪を犯してしまった少年たちを雇用する、この協力雇用事業所が北九州市は 80 社を超えた。4、5 年前までは 30 社ほどしかなかった。福岡県でも今 480 社を超え、全国は 1 万 2,600 社ある。

北九州市立大学 防犯・防災プロジェクト

- 地域の方とつながって、また、一緒に活動することによって、防犯や防災の意識を高めることを目的としている。この目的達成のために、私たちは学生や地域の方にきっかけを提供できればいいなという思いで活動している。

北九州市食生活改善推進員協議会

- 地域の高齢者を対象に、それぞれの家庭に訪問して、食事に関する状況の確認や助言をすることで、高齢者の低栄養の予防の普及の啓発などを行うとともに、高齢者の安否も確認をしている。